

未永い交流を確認

トロイ市を訪問して

訪問団一行は、6月2日から8日までの日程で、国際姉妹都市縁組を結んでいるアメリカ合衆国オハイオ州トロイ市を訪問し、温かい歓迎を受けました。

今回の訪問は、新高梁市になったのを受け、ピーミッシュ・トロイ市長から同市最大のイベントである「いちご祭り(ストロベリー・フェスティバル)」への招待があり、実現したものです。

訪問は、ピーミッシュ市長をはじめとする皆さんの大歓迎で始まりました。

トロイ市は、人口約2万人。日本企業が数社あり、同市の発展に寄与しています。市内は開放的な平原建ての家が多く、周囲には芝生、庭には草花やカエデが整然と植えられています。公園や道路などにはゴミなどなく、非常に美しいまちでした。市民の「自分たちのまちは、自分たちできれいに」といった意識の高さが伺えました。

また、多くの市民の皆さんともふれあうことができました。「いちご祭り」の開催中であって、心から祭りを楽しんでいる様子で、市民

は善意に満ちており、親しみ深い印象を受けました。

言葉も環境も異なる両市ですが、お互いに学ぶべき点はたくさんあります。これまで培ってきた友好親善をさらに深め交流を続けていきたいと思えます。

平成3年から毎年交互に派遣しあっている中学生の交流事業。今年8月3日から18人の中学生を派遣します。これまでに高梁市からは約80人。トロイ市から受け入れた中学生は100人余りにも及びます。こうした子どもたちが、自分の体験を友だちに伝えてくれており、交流の輪はその何十倍にも大きく膨らんでいます。

文化交流としては、いちご祭りの神楽の公演や市民の絵画、手芸、写真などの作品展を両市で開催しております。

こうしたこれまでの交流事業から両市は、お互いに理解し合い、さらに交流を深めようとしております。

今回の訪問を通して、今後も教育文化の交流を中心に未永く両市の親善を深めることを確認し合うことができました。

〔訪問の日程 文・官尾雅彦〕

6月2日

私たち一行は、16時20分成田発でニューヨークに向かいました。日付変更線を越えてニューヨーク空港に現地時間16時5分に到着。その後、国内線に乗り換えてトロイ市最寄りのデイトン空港に着いたのは22時でした。夜遅くにもかかわらずピーミッシュ市長ほか4人の温かい出迎えを受けました。

6月3日

8時からの朝食会の後、9時にホテルを出発し、市役所へ向かいました。トロイ市は田園都市であり、整理された町並みは絵になる風景で実に美しく感じました。すべての建物は昔のままの姿で残すように配慮され、外壁の塗装などに工夫が施され、落ち着いた印象を受けました。

市役所に到着するとフェルプス警察署長、デニー消防長の出迎えを受けました。

議場も見せていただきましたが、議会は議員が7人、執行部7人で構成されていて、多くの市民が傍聴できるようになっていました。

その後11時から、教育委員会を訪問。ドルフ教育長、トロッスル教育委員長と面会しました。

教育長は「トロイ市は歴史と教育を誇りにしている。特に教育にお

国際姉妹都市縁組 締結までの経緯

トロイ市との国際姉妹都市縁組締結のきっかけは同市のダグラス・キャンベル市長が、国際化が進む中、日本に関心を持ち、日本の都市との交流を希望していたことにありました。キャンベル市長はトロイ市に隣接し、高梁学園と教育交流協定を結んでいるライト大学副学長のエレノア・コーク博士(後に吉備国際大学教授)と協議。コーク博士は地域開発や企業誘致などが専門であり、姉妹都市縁組がうまくいくには、類似性のある都市を選ぶことが大切であるとの認識のもと、高梁市との交流提携を働き掛けました。

昭和63年3月、コーク博士が、キャンベル市長からの親書を携え来高。親書で、多くの類似性がある高梁市との友好関係を深めようと高梁市長のトロイ市訪問を要請。その後もトロイ市の幹部が来高するなどし、再三の要請がありました。

平成元年9月、樋口修市長と奥田真一市議会議長がトロイ市を訪問。トロイ市議会が高梁市を国際姉妹都市として受け入れることを決議。

平成2年5月、吉備国際大学の開学にあわせ、トロイ市側からキャンベル市長、ジェンキンス市議会議長ら一行12人を迎え、国際姉妹都市縁組調印式を行いました。

調印後、両市は、教育文化交流に重点を置き友好関係を深め、その意思は立木大夫市長に引き継がれました。

トロイ市議会議場



トロイ市役所にて



記念植樹。左から安原議長、秋岡市長、ビーミッシュ市長の3人



いちご祭りパレード



F & Pアメリカを視察

る知識技能は伝統的な文化として生かされている。また、施設の面においても素晴らしいと評価されている」ことを強調されていました。

トロイ市には産業機関の援助を得て、校外でも高度の専門的トレーニングが受けられる職業高校があります。

14時には、日系企業であるF & Pアメリカを視察。トロイ市民はそこに住み、そこで働く基本理念を持つています。そのため企業誘致を進め、市の隆盛が図られ、市内から有能な人材を採用し、技術的な面での業績をあげています。また、工業都市であっても煙を出さないことに配慮されています。誘致されている企業はホンダ、パナソニック等数社があります。

16時30分からパブリックスクエアのコミュニティルームで歓迎の交流会がありました。ジェンキンス前市長をはじめ、高梁市訪問経験者、ビジネス関係者など50人余りが集まり、高梁市での思い出など話がつきない有意義な会となりました。

また、18時からは前日祭の大イベント、ベットレースを見学。車に1人が乗り4人で押すもので、車にはベットのソファ、すのこ板などの部品を積んで行う一種の障害物競走でした。

◆6月4日

8時15分からいちご祭りに参

加。

祭りの起源は、コミュニティ祭りの一環として1977年から始められました。トロイ市郊外にあるフルトン農場が中西部でいちごの生産農場の一つであることから、祭りのテーマが「いちご」になりました。通りの両側には約7万人の観衆。その中をオープンカーに乗り、沿道の市民に「ありがと」と言いながら手を振りました。市民からは「スター・シテイ」と笑顔で呼んでくれ、感激もひとしおであり、私たちに終生忘れ得ない思い出となりました。

この日のパレードは各種団体によるもので、老若男女が、踊り、ブラスバンド演奏等170組による演出でした。また、この中に退役軍人による星条旗を先頭にしたり行進もあり、観衆も起立し応える姿も見られました。

企画運営はすべて各種団体の代表と、地区の代表が一年かけて計画したものであり、市民の意気を感じました。マイアミ川の堤防沿いには露店も多く出され、手づくりのものなどが売られ、中でもいちごのアイスクリームが人気でした。

午後は、新しく整備されたメイヤーズパーク（歴代の市長の名前と在職期間が石版に刻まれ公園内の歩道に埋め込まれている）で、日米親善の木として有名な「ハナ

ミズキ」を植樹しました。

15時からは民間の病院であるアパー・バレー・メディカルセンターを視察。広大な土地に建てられており、ゆとりのある建物でホテルのように床にカーペットが敷いてあり、温かみのある居住空間でした。

19時30分からはお別れ夕食会。両国の国家斉唱の後、ビーミッシュ市長が、「今日までの交流により、両市の多くの市民の間に本当の友情が成長している。今後も友好関係を続けていきたい」とあいさつ。これを受け、秋岡市長は「国際交流は、まちづくりの重要な柱の一つである。中学生の交流は、高梁市、トロイ市のみならず、日米両国の将来にとっても大変意義深い。新市においても教育文化などを中心とした交流をしたい」とあいさつしました。

また、ローラー議長は「高梁訪問の際、どこへ行っても温かく迎え入れてもらえたことが忘れられない」と高梁訪問を振り返りました。安原議長が「トロイの皆さんが、自分たちのまちに誇りを持ってもらえるのを実感した。素晴らしいことである。いつまでも友好関係を続けていきたい」と述べました。記念品として高梁市からは神楽人形を、トロイ市からは市のマークの入った旗を交換しました。

◆6月5日

6時30分からお別れの朝食会が開かれ、ビーミッシュ市長ほか5人とともに朝食をとった後、トロイ市に別れを告げました。

12時15分にニューヨークに着。15時からメトロポリタン美術館を視察しました。

◆6月6日

10時30分から自然史博物館、14時からはニューヨーク近代美術館を視察。アメリカの美術館、博物館は市民に開かれた場所となっており、特に子どもたちの学習の場として利用されています。こうしたことは本市の美術館、資料館等にも役立たせていきたいと思えます。

◆6月7日

8時にホテルを出て、ニューヨーク空港11時10分発で、成田に着いたのは8日の日本時間13時50分でした。高梁市には21時に戻ってきました。数多い成果を得た訪問でした。

今回の公式訪問団

- 高梁市長 秋岡 毅
- 高梁市議会議長 安原 幹人
- 高梁市教育委員会委員長 官尾 雅彦
- 高梁市教育委員会教育長 西井 節壽
- 市職員 仁子 滋博